

事案名	銚子沖の事案（千葉県12-1）
分類	廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『続・銚子市史 昭和前期』昭和58年〔1〕 ・「千葉県における漁業補償」昭和45年3月〔2〕 ・「昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）」平成15年8月29日〔3〕 ・『朝日新聞』昭和34年7月2日〔4〕 ・「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」昭和45年3月〔5〕 ・「銚子沖イペリット缶等第二次掃海事業報告書」昭和45年10月〔6〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔7〕 ・「銚子沖イペリットかん等引揚経過について」〔8〕 ・「千葉県銚子港外における不発弾調査について（報告）」昭和48年10月22日〔9〕 ・「銚子沖での毒ガス缶などの発見一覧表」〔10〕 ・「旧日本軍毒ガス弾の発見・処理状況」平成6年10月12日〔11〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査のフォローアップ調査結果」〔12〕 ・『朝日新聞』昭和26年4月6日〔13〕 ・『朝日新聞』昭和26年4月7日〔14〕 ・『朝日新聞』昭和26年4月11日〔15〕 ・「毒ガス弾等調査資料」昭和47年6月5日〔16〕 ・『千葉日報』昭和32年9月15日〔17〕 ・『千葉日報』昭和37年8月24日〔18〕 ・銚子沖イペリットかん等引揚事業実績〔19〕 ・『千葉日報』昭和49年11月14日〔20〕 ・『朝日新聞』（京葉版）昭和49年11月14日〔21〕 ・『朝日新聞』昭和51年9月5日〔22〕 ・茨城県魚政課資料〔23〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月9日〔24〕
資料内容概要	<p>千葉県銚子沖では、戦後、占領軍の指揮のもと、各地から集積された毒ガスが海洋投棄された。同海域では、戦後間もない時期からイペリット缶等の発見や被災事案が多発している。</p> <p>なお、本事案については、千葉県沖及び茨城県沖の海域を示すものとする。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p>

- ・ 昭和20年10月15日に米第8軍第24火砲中隊(約150名)は、旧日本軍の残存弾薬・爆弾・毒ガスを銚子沖に廃棄するため、銚子に本部を設置した。処分する弾薬は長野、福島、静岡県方面から鉄道で輸送され、その爆弾、砲弾の量は貨車で4800車両、うちガス弾等は約30車両もしくは320車両であったといわれている。米軍の指揮のもと、投棄作業は漁船によって行われ、昭和20年10月から翌年5月にかけて銚子一の島灯台北東15哩周辺の海域、水深約200mに投棄したとしている〔1〕〔2〕。

発見・被災・掃海等処理情報

- ・ 銚子沖における毒ガス弾等の発見状況・個数について、各資料に示された数値は別紙1のとおりである。被災事件については、別紙2のような状況である。
- ・ 掃海作業は、昭和32年9月13日に漁船が銚子市一の島灯台東北東約27kmの海域で操業中に鉄製セメント樽容器を引き揚げて被災したことを受けて、昭和34年6月25日から7月1日までの間に実施されたが、毒ガス缶は引き揚げられなかった〔3〕〔4〕。
- ・ 銚子一の島灯台北東約15海里の海域は好漁場であった関係で、昭和44年11月初旬から45年1月までの間に9隻14件がイペリット缶を引き揚げ、15名が負傷していることが判明した。このため同年中に2回にわたり掃海が行なわれ、イペリット缶33個を揚収した〔5〕〔6〕〔7〕。
- ・ 昭和46年度からは、缶等が入網した場合は海上保安部の巡視船に引き渡し、その際に生じた損失等に係るものに対して国・県において一定額を補助することとなった〔8〕。
- ・ 毒ガス弾等の目撃情報としては、昭和48年10月16日～19日に地元のダイバーがイペリット缶らしき物体を発見したとの通報を受けて横須賀水中処分隊が出動したが、海上模様不良により搜索を断念した〔9〕。

現在の状況

- ・ 銚子漁港は現在、千葉県が管理しており、主にまき網漁業、底引き漁業、はえ縄漁業が行なわれている。今後の主な事業計画としては、川口外港地区における西防波堤、内防波堤の整備や、黒生地区における外郭・水域施設、輸送道路施設等の整備がある〔24〕。

【別紙1】銚子沖における毒ガス弾等の発見状況

料源 年	国土交通省の情報〔10〕	農林水産省の情報〔12〕	防衛庁の処理件数〔11〕	千葉県の情報 (千葉県資料)
昭和26年				弾1 〔2・13・14・15〕
昭和32年		発見事件4件		鉄製容器1 〔5・17〕
昭和33年				弾1 〔18〕
昭和42年		発見事件1件		不明1 〔5〕
昭和44年				不明2 〔5〕
昭和45年		発見事件7件。 これとは別に掃海事業で 缶を33個掃海		発見事件7件。 2回にわたって掃海を実 施し、33個掃海〔5・6〕
昭和46年	ドラム缶17・つぼ7・ 不明3	26		30(46年度)〔19〕
昭和47年	ドラム缶33・つぼ5・ 小型2・不明1	40		39(47年度)〔19〕
昭和48年	ドラム缶16・つぼ11・ 小型1・不明1	29		34(48年度) 〔19〕
昭和49年	ドラム缶3・つぼ16・ 砲弾1	20		13(49年度)〔19〕
昭和50年	ドラム缶7・つぼ9	17		30(50年度)〔19〕
昭和51年	ドラム缶19・つぼ11・ 不明1	31	2	18(51年度)〔19〕
昭和52年	ドラム缶9・つぼ6	15	3	11(52年度)〔19〕
昭和53年	ドラム缶17・つぼ10・ 不明1	29	1	26(53年度)〔19〕
昭和54年	ドラム缶20・つぼ6	24	1	22(54年度)〔19〕
昭和55年	ドラム缶12・つぼ4	18	2	9(55年度)〔19〕
昭和56年	ドラム缶7・つぼ2・ 不明2	11	1	7(56年度)〔19〕
昭和57年	ドラム缶7	10	5	7(57年度)〔19〕
昭和58年	ドラム缶7・つぼ4	10	2	7(58年度)〔19〕
昭和59年	不明3	8		4(59年度)〔19〕
昭和60年	ドラム缶1・不明1・ つぼ2	4		4(60年度)〔19〕
昭和61年	ドラム缶2・缶1	3		1(61年度)〔19〕

昭和62年	ドラム缶 1・不明 1	1		1 (62年度)〔19〕
平成元年	ドラム缶 1本・不明 1	2		1 (元年度)〔19〕
平成 3年				
平成 4年	ドラム缶 1	1		1 (4年度)〔19〕
平成 14年	ドラム缶 1	1		
合 計	ドラム缶 181・つぼ 93・缶 4・小型 3・砲 弾 1・不明 15 総計 297	338	17	298、その他に弾 2・鉄製 容器 1・不明 3 総計 304

(表に記されていない年は発見事案が報告されていないので省略している)

【別紙2】銚子・銚子沖における毒ガス被災事例

日付	場所	概要	資料
昭和26年 4月2日	銚子市	海岸で男性が鉄製のガスつぼを拾い、自宅で解体中に9名が中毒し、4名が失明。男性とその母親、男性の長男の3名が死亡し、6名重体。	「朝日新聞」昭和26年4月6日〔13〕 「朝日新聞」昭和26年4月7日〔14〕 「朝日新聞」昭和26年4月11日〔15〕 「千葉県における漁業補償」〔2〕
昭和29年 6月29日	銚子沖	サルベージ会社(爆発物件等引揚業者)が作業中に60kgイペリット爆弾2発を引き揚げて作業員6名が被災した	「毒ガス弾等調査資料」〔16〕
昭和32年 9月13日	銚子沖 (一の島 灯台東北 東15マイ ル)	漁船の底引き網に鉄製セメント樽用容器(直径10m、高さ1.2m)1個を引き揚げ、直ちに海中に投げ捨てたが乗組員9名が全治4ヶ月の重症を負った。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「銚子沖イペリット缶等引揚経過について」〔8〕 「千葉日報」昭和32年9月15日〔17〕
昭和33年	銚子沖	網にかかったガス弾を船上で分解しようとして17名が中毒した。	「千葉日報」昭和37年8月24日〔18〕
昭和42年 9月26日	銚子沖 (一の島 灯台NE15 マイル)	漁船がイペリットを発見し、5名負傷。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕
昭和44年 11月	銚子沖	漁船2隻がイペリット缶を引き揚げて、うち1隻の乗組員が流涙がとまらなかった。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕
昭和45年 1月17日 (17~25)	銚子沖 (一の島 灯台北東 約15海 里)	漁船が底引網でビール樽のような缶を引揚げ、5名が負傷。その後、3隻の漁船もイペリットを引揚げ、15名が負傷。	「銚子沖イペリットかん等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「千葉県における漁業補償」〔2〕 「読売新聞」夕刊昭和45年1月21日 「千葉日報」昭和45年1月23日 「朝日新聞」昭和45年2月5日 「毎日新聞」昭和45年2月5日
昭和45年 1月25日	銚子沖 (一の島 灯台北東 約15海 里)	沖合い底引き船が操業中にイペリットガス缶(つぼ型)が入網。乗組員7名が目の症状を訴え銚子市内の眼科で診察を受ける。44年11月から漁船7隻、乗組員30人ほどが重軽傷の被害にあっている。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕
昭和45年 3月3~11 日	銚子沖	銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民8名負傷。新聞報道では9名負傷とある。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「朝日新聞」夕刊昭和45年3月3日 「毎日新聞」夕刊昭和45年3月3日 「毎日新聞」昭和45年3月4日 「千葉日報」昭和45年3月4日 「千葉日報」昭和45年3月7日 「千葉日報」昭和45年3月10日
昭和45年 9月16日 ~10月2 日	銚子沖	銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民7名負傷。新聞報道では8名負傷とある。	「銚子沖イペリット缶等第二時緊急掃海事業報告書」〔6〕 「千葉日報」昭和45年10月3日
昭和49年 11月12日	銚子漁港	銚子漁港岸壁拡張工事現場で、海底をさらって旧軍の砲弾探しを行っていた浚渫船が土砂とともにイペリット弾を引き上げ、1名負傷。	「千葉日報」昭和49年11月14日〔20〕 「朝日新聞」(京葉版)昭和49年11月14日〔21〕
昭和51年 9月3日	銚子沖 (犬吠崎 沖東北東 約30km)	昭和51年9月3日、銚子市犬吠埼沖(利根川河口北東約18~19マイルの海域)で茨城県波崎町の漁業者が小型底引き船で操業中、網に付着したイペリット剤(ゼリー状の塊)に触れ、5人が重軽傷を負った。	「朝日新聞」昭和51年9月5日〔22〕
平成14年 3月26日	茨城県鹿 島郡大洋 村汲上の 東30km沖	平成14年3月26日、茨城県鹿島郡大洋村汲上の東30km沖で操業中の漁船の網にイペリット缶が入網し、缶は曳航中に海底に落下したが、網に付着していたイペリット剤により3人が軽傷を負った。	「茨城県魚政課資料」〔23〕